

令和6年度学校評価総括表

学校法人奈良岡村学園 日本教育学院高等学校

教育目標	教育基本法及び学校教育法に則り、学校教育を行い、社会に貢献できる有能な人材を育成する。
スクールミッション	生徒の多様な特性や、地域・学校等の実情を踏まえ、個別のニーズや特性に応じた柔軟な学びを実現し、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に向け、学力の育成、社会的・職業的自立に必要な力を育成します。
本年度重点目標	具体的目標
基礎学力が不足する生徒の学力向上を図る。	わかりやすい授業を通じて、学習に関する充実感。達成感を持たせる。 きめ細かな個人指導を充実させる。 読書指導やHR活動を通じて、語彙力や表現力の向上に努める。
基本的な生活習慣と社会規範力の育成を図る。	規則正しい生活習慣を身につけ卒業後の進路に向けた取り組みを行う。 自他の生命の尊重や他者への思いやりなど、道徳的な指導を充実させる。 地域との交流を通じて、社会の一員としての規範意識を向上させる。

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	社会で生きるために必要となる基礎的・基本的な学力を育成します。 コミュニケーション能力を養い、社会生活に積極的に関わる姿勢を育成します。 自主的に学ぶ通信制高校の特性を生かし、主体的に問題を解決していく姿勢を育成します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	共通教科・科目の習得を軸として、個々の学習状況に応じた授業を行い、基礎的学力の定着を図ります。 一人ひとりのレポートに対して、丁寧な添削指導を行います。 単位修得のためのガイダンスを実施するとともに一人ひとりの計画に沿った単位修得を支援します。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	「高校を卒業したい」という強い意志を持った生徒 自ら学ぶ意思を持って学習に取り組む生徒 将来の展望を持って自己実現に向けて努力する生徒 基本的な生活習慣を身につけ、規範意識を持って生活できる生徒

具体的目標	具体的方策・評価指標	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	総轄 (自己) 評価
多様な生徒に対応できる教育環境を作る。 個々の生徒に対応できる学習環境をつくる。 習得単位の管理、成績処理業務の迅速化を図る。	基礎学力を定着させる指導方法を研究する。 単位修得率を上げて、単位未修得者が出ないようにする。 レポート提出の指導を徹底する。 個別相談・三者懇談等を実施し、生徒の理解に努める。 成績処理等について正確で効率のよい方法を考える。	スクーリングを欠席しないように指導し昨年度と比べ 較し欠席者が減った。 計画的にレポートの提出を指導したが一部提出が遅 れる生徒がいた。 個別懇談等を定期的に行い、保護者を含め相互理解 に努めることができた。	転入生が増加する中で個々にあった指導ができるよ うにする。 成績処理の迅速化に努める。 スクーリング出席、レポート提出の管理指導の強化 に努め、単位未修得者が出ないようにする。 スクーリング欠席者が出ないように指導していく。	B
生徒が安心して楽しい学校生活を送ることができる 環境をつくる。 基本的な生活習慣を確立させる。 特別に問題を抱える生徒への指導の充実を図る。	挨拶の習慣化を図るため、教員自ら挨拶の励行に努め る。 HR等で生徒の意識の喚起を促し、問題行動を未然に 防止する。 生活習慣が身につけていない生徒に対して保護者等と 連携し生活面での指導を行う。 生徒一人ひとりの問題を全教員で共通理解し、指導に 当たる。	教員自ら挨拶の励行に努め、徐々にではあるが生徒 自ら挨拶ができるようになってきた。 規則正しい生活習慣を身につけさせるため、スクー リング以外にも登校を促し、徐々に登校日数を増や すことができた。	生徒一人ひとりの状況を把握し、全教員が指導でき る体制を整える。 生活習慣が身につけていない生徒に対して、保護者 との連携を強め指導していく。	B
進路指導体制を強化する。 進路選択に関わる情報の提供と適切な助言指導を行 う。	進路決定できない生徒に対して早い段階で進路目標を 設定させる。 進路希望に基づき、個別に情報提供を行う。 HR等の時間を確保し、卒業後の生活について考えさ せる。	1年次から進路学習の時間を確保し、進路決定に向 けて取り組み早い段階で進路を決定する生徒がいる 一方、卒業のみを望む生徒がいる。	高校卒業だけで進路を決めることができない生徒に 対して個別に情報提供を行い、具体的な進路を考え させる。	C
生徒一人ひとりを見つめ、その性格や特徴を把握 し、人権を認め合い、自他共に大切にしていける心 を育てる。 人権が尊重される地域社会を築くため、生徒一人ひ とりの人権意識の高揚を図る。	HR等の時間を確保し、生徒の人権意識を高める。 命の大切さについて考えさせ、いじめを許さないなか ま集団を育て、いじめをなくす。	HR等を通じ、人権意識を高めた。 校外学習等を通じ他年次との交流を持つことができ た。 生徒数が少ないため仲間集団を育てるまでには至ら なかった。	HR、総合的な探究、特別活動等の時間を通して、 生徒の人権教育を行っていく。 他年次との交流できる機会を多くを確保し、卒業後 地域・社会での活動ができるように指導していく。	A

実現状況評価 A 十分である B ほぼ十分である C あまり十分でない（あまりできなかった） D 改善を要する（できなかった）

生徒アンケート 集計

	そう思う	だいたい そう思う	あまりそう 思わない	そうは思わない	わからない
1. 本校は生徒一人ひとりに寄り添い大切にしている。	48%	37%	10%	3%	2%
2. 本校は安全安心な学習環境である。	57%	32%	10%	2%	0%
3. 先生は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる。	48%	34%	6%	5%	6%
4. 学校のことについて家族とよく話す。	31%	34%	23%	11%	2%
5. 学校からの連絡物は必ず家の人に渡している。	53%	35%	11%	0%	0%
6. 本校のホームページを見ている。	8%	13%	25%	36%	19%
7. 本校に入学してよかった。	62%	26%	2%	2%	8%
8. マチコミを見て学校からの連絡を確認している。	84%	16%	0%	0%	0%
9. 規則正しい生活をしている。	20%	31%	38%	9%	2%
10. 卒業後の進路についてある程度見通しを持って生活している。	21%	30%	25%	19%	5%
11. 本校は基本的な生活習慣（あいさつ、言葉遣い、身だしなみなど）についての指導を適切に行っている。	29%	49%	11%	8%	3%
12. 本校は生徒の進路実現のために、日頃から適切な指導を行っている。	37%	31%	13%	3%	16%
13. 本校は、お互いの人権を尊重する教育に取り組んでいる。	44%	40%	5%	3%	8%

保護者アンケート 集計

	そう思う	だいたい そう思う	あまりそう 思わない	そうは思わない	わからない
1. 本校は生徒一人ひとりに寄り添い大切にしている。	26%	48%	11%	2%	13%
2. 本校は安全安心な学習環境である。	32%	47%	8%	0%	13%
3. 教職員は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる。	29%	39%	15%	2%	16%
4. 本校は、家庭との連絡を密に取っている。	19%	30%	38%	10%	3%
5. 本校は生徒のキャリアを見据えた指導ができています。	19%	23%	16%	10%	32%
6. 子どもと学校のことについてよく話している。	27%	47%	18%	6%	2%
7. 本校教育活動に興味がある。	18%	47%	13%	3%	19%
8. 本校のホームページを見ている。	19%	32%	26%	10%	13%
9. 子どもを本校に入学させてよかった。	48%	40%	3%	0%	8%